

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地	
日本工学院八王子専門学校		昭和62年3月27日		千葉 茂		〒192-0983 東京都八王子市片倉町1404番地1他 (電話) 042-637-3111	
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地	
学校法人片柳学園		平成25年3月1日		片柳 鴻		〒144-8650 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-3732-1111	
目的	土木・造園に関する基礎的な知識と応用力、コミュニケーション能力、土木・造園施工管理技士や造園技能士などの資格取得能力の育成を目標とし、ものづくりの魅力とやりがい追求できるような実習を通じて実践的な技術を身につけ、地域社会や地域環境に貢献できる人材を育成する。						
分野	課程名		学科名		専門士		高度専門士
工業	工科技術専門課程		土木・造園科		平成25年文部科学大臣 告示号外第17号		-
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	1860	990	0	1230	0	0
生徒総定員		生徒実員		専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160 人		124 人		3 人	14 人	17 人	
学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 授業日数の4分の3以上出席し試験を受験する。 S: 90点以上 A: 80～90点 B: 70～79点 C: 60～69点 D: 59点以下は不合格 P: 単位認定		
長期休み	■学年始: 4月1日～ ■夏季: 8月1日～8月31日 ■冬季: 12月23日～1月9日 ■学年末: 3月21日～3月31日			卒業・進級条件	進級要件 ①各学年の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること 卒業要件 ①卒業年次の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること		
生徒指導	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 当日中に担任から電話等で連絡することを基本とし、保護者と密に連絡を取るなどの指導をしている。			課外活動	■課外活動の種類 卒業作品展示会、ボランティア活動、体育祭、学園祭 ■サークル活動: 有		
就職等の状況	■主な就職先、業界等 茨城県庁 株式会社岩城 京王建設株式会社 株式会社昭立造園 西武造園株式会社 東急建設株式会社 中日本ハイウェイ・エンジニアリング株式会社 株式会社NIPPO ■就職率^{※1} : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合^{※2} : 98.2 % ■その他 (平成 27 年度卒業者に関する 平成28年5月1日 時点の情報)			主な資格・検定等	一・二級土木施工管理技士 一・二級造園施工管理技士 一・二級建築施工管理技士 一・二級管工事施工管理技士 二・三級造園技能士 三級建設業経理事務士 測量士補 玉掛技能講習 小型移動式クレーン運転技能講習		
中途退学の現状	■中途退学者 2 名 平成27年4月1日時点において 在学者 117 名 平成28年3月31日時点において 在学者 115 名 ■中途退学の主な理由 就職・体調不良 ■中退防止のための取組 担任と科長による面談。懇談会・電話連絡等による保護者との情報共有。 担任による指導の他、経済面では学費・奨学金相談窓口を設け、学生生活においてはカウンセリングルーム等を設け個々の学生に適した指導・助言・相談等を行っている。						
ホームページ	http://www.neec.ac.jp/						

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業が必要な人材を育成するために、企業へのヒアリングを随時行い、土木・造園分野の実務に関する知識や技術を調査し、授業科目の改善や内容の工夫を行う。更に、授業科目のシラバスを基に科目担当教員と企業講師の間で意見交換を行い、授業内容や評価方法を定める。現在の建設業界で必要なスキルを身につけられるよう、常に授業内容や方法を検証することにより、実践的かつ専門的な職業教育を目指す。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は、学校長を委員長とし、副校長、学科責任者、教育・学生支援部員、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から各3名以上を委員として構成する。

本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成28年4月1日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
鈴木 博之	明星大学理工学部 教授	平成28年4月～29年3	②
元石 真祐美	成友興業(株) 取締役 管理本部副本部長兼総務部長	平成28年4月～29年3	③
山野 大星	日本工学院八王子専門学校 副校長		
清水 憲一	日本工学院八王子専門学校 科長		
内田 寿明	日本工学院八王子専門学校 主任		
荒井 哲子	日本工学院八王子専門学校 教育・学生支援部課長		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

教育課程編成委員会は、年間2回、前期末と後期末に開催する。

(開催日時)

第1回 平成28年3月11日 15:00～17:00

第2回 平成28年8月4日 15:00～17:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

教育課程編成委員会等で議論された内容については、学科内でさらに検討し、カリキュラムに反映していく。今年度は、現場で使用する材料(コンクリートやアスファルト、土など)に触れておくことや、現場監督など技術者も経理の知識が必要不可欠である、といった意見をいただき、土木実習や建設経理で実施していく。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

建設業界の中の土木・造園の分野に関する実践的な実習・演習を行うため、教育内容に関するノウハウや最新技術の動向における助言、または技術指導などを受けられる企業を選定する。企業等との打ち合わせにより、企業等のニーズに沿った実習内容や評価方法を設定し、目標を明確にする。企業等からの派遣講師による実践的な実習・演習を実施後、企業等の派遣講師による評価に基づき、教員が成績評価・単位認定を行う。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

企業等からの派遣講師と毎回の実習内容について打ち合わせを行い、目標を設定する。実習・演習を実施後、目標に対してどこまで達成できたかを確認し、評価を行う。

(3)具体的な連携の例

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
測量実習1	各種器具の取り扱い方法、距離測量、平板測量、水準測量、トラス測量について実習を通じて学びます。	松浦技術士事務所
造園実習1	土壌の特性、肥料の配合、地ごしらえ、樹木の植栽、草花の植栽、地被植物の植栽の工法について実習を通じて学びます。	株式会社 日動計画
CAD製図1	2次元CADを活用し、平面図、立面図など設計図面の基礎的な作成方法を学びます。	有限会社 水都環境
造園設計	造園設計の基本的な考え方を習得し、条件に沿った設計について、実習を通じて学びます。	有限会社 春秋設計工房

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得する。また、学校全体の教員研修を実施することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

文部科学省委託事業 平成28年度「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進事業」社会基盤分野における建設IT技術(BIM・CIM)に係る中核的専門人材養成プログラム/社会基盤分野における次世代ニーズに係る中核的専門人材養成プログラム開発プロジェクト

平成28年7月29日 第1回合同委員会

平成28年9月8日 第2回CIM技術委員会

国内外において普及してきたCIMや新技術(i-Constructionやドローンを使った測量など)について、最新の知見を得た。

② 指導力の修得・向上のための研修等

平成28年3月30日 「夜回り先生」水谷修氏の講演を聞き、学生指導の知見を得た。

平成28年8月3日 年度末の卒業制作展に向けて、MARSProjectを取り上げ、グループワーキングを通じて指導方法を検討した。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

平成28年9月17日 日本造園アカデミー会議平成28年度シンポジウム

「魅せられる庭・公園・まち並みづくり～故郷の風景を守り育てる～」というテーマのシンポジウムに参加し、自然環境の保全、地域振興と街づくりに関する講演を聴講した。

平成28年10月27日 第3回CIM技術委員会

② 指導力の修得・向上のための研修等

平成29年3月 学生のメンタルに関する研修を予定している。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、客観性や透明性を高める。

学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置し、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体の専門性や指導力向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校運営の改善の参考とする

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 理念・目的・育成人材像
(2) 学校運営	(2) 運営方針(3) 事業計画(4) 運営組織(5) 人事・給与制度(6) 意思決定システム(7) 情報システム
(3) 教育活動	(8) 目標の設定(9) 教育方法・評価等(10) 成績評価・単位認定等(11) 資格・免許取得の指導体制(12) 教員・教員組織
(4) 学修成果	(13) 就職率(14) 資格・免許の取得率(15) 卒業生の社会的評価
(5) 学生支援	(16) 就職等進路(17) 中途退学への対応(18) 学生相談(19) 学生生活(20) 保護者との連携(21) 卒業生・社会人
(6) 教育環境	(22) 施設・設備等(23) 学外実習・インターンシップ等(24) 防災・安全管理
(7) 学生の受入れ募集	(25) 学生募集活動(26) 入学選考(27) 学納金
(8) 財務	(28) 財務基盤(29) 予算・収支計画(30) 監査(31) 財務情報の公開
(9) 法令等の遵守	(32) 関連法令、設置基準等の遵守(33) 個人情報保護(34) 学校評価(35) 教育情報の公開
(10) 社会貢献・地域貢献	(36) 社会貢献・地域貢献(37) ボランティア活動
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

教員からの一方向的な講義で知識を覚えるのではなく、学生たちが主体的に参加、仲間と深く考えながら課題を解決する力を養うのを目的としたグループワークなどを実施した方が良いと意見を受け、教員研修の実施や実習などを計画から実施するまでをグループで一貫して行い、作品は卒業制作展に出展するなど、今後の学生指導、カリキュラムの設定に反映させる。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成28年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
森 健介	順天堂大学 非常勤講師 (元白梅学園高等学校副校長)	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	学校関連
金子 英明	日本工学院八王子専門学校 校友会会長 (セントラルエンジニアリング株式会社 グループマネージャー)	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	卒業生/IT企業等委員
細谷 幸男	八王子商工会議所 事務局長	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	地域関連
北尾 雄一郎	ジェムドロップ株式会社 代表取締役	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	クリエイターズ企業等委員
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 事務局長	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	ミュージック企業等委員
古木 勝紀	株式会社バンパー 取締役	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	デザイン企業等委員
一瀬 康剛	株式会社アトム精密 代表取締役	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	テクノロジー企業等委員
長畑 芳仁	NPO法人日本ストレッチング協会 理事長	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	スポーツ企業等委員
石川 仁嗣	医療法人社団 健心会 みなみ野ハートクリニック 事務長	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	医療企業等委員
榊原 直哉	八王子市私立保育園協会 (藤井保育園副園長)	平成28年7月1日～ 平成29年3月31日(9ヵ月)	医療・保育団体等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()) 平成28年9月12日

URL: <http://www.neec.ac.jp/announcement/17332/>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。

また、私立学校の定めに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は、法人経理部において取扱い、「学校法人片柳学園 財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(2) 各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3) 教職員	教員・教員組織
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5) 様々な教育活動・教育環境	施設・設備等
(6) 学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7) 学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8) 学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9) 学校評価	学校評価、平成27年度の項目別の自己評価表
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL: <http://www.neec.ac.jp/announcement/17332/>

授業科目等の概要

(工科技術専門課程 土木・造園科) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ビジネススキル1	社会人に必要な一般常識やマナーを学びます。また、ビジネス能力検定の対策も行います。	1前	30	2	○			○		○		
○			測量学	測量の目的と各種測量内容を理解し、現場でどのように役立てるかを学びます。	1前	30	2	○			○			○	
○			土木材料	土木工事で使用する材料として、コンクリート、骨材、鋼材、瀝青材料等の特性について学びます	1前	30	2	○			○			○	
○			造園技術 1	造園史、庭園の種類、造園器具、基礎工、植栽などについて学びます。	1前	30	2	○			○		○		
○			造園材料	造園で使用する材料、石材、木材、繊維材料、植物の種類と特性について学びます。	1前	30	2	○			○			○	
○			土木製図	製図の基礎、三面図から土木の基本的な図面について写図を行い、その機能を学びます。	1前	60	2			○	○		○		
○			土木実習	土木工事で使用する材料として、コンクリート、鋼材、瀝青材料について、実験や実習を行いその特性を学びます。	1前	60	2			○	○		○		
○			測量実習 1	各種器具の取り扱い方法、距離測量、平板測量、水準測量、トラバース測量について実習を通じて学びます。	1前	60	2			○	○			○	○
○			造園実習 1	土壌の特性、肥料の配合、地ごしらえ、樹木の植栽、草花の植栽、地被植物の植栽の工法について実習を通じて学びます。	1前	60	2			○	○			○	○
		○	3級造園技能士対策講座	3級造園技能士合格のための対策を行います。	1前	60	2			○	○			○	
		○	建設機械 1	土木施工、造園施工で使用する建設機械の免許を取得するための講習を実施します。	1前	30	1			○		○		○	

○		ビジネススキル 2	就職するための心構え、自分に合った就職先の選び方など、就職活動に必要な事柄を学びます。	1 後	30	2	○			○		○		
○		構造力学 1	土木で使用する数学の基礎と、構造物の基本要素であるはりの力学について学びます。	1 後	30	2	○			○		○		
○		土木計画	国土の利用計画、交通計画、治水、利水、都市計画など計画全般を学びます。	1 後	30	2	○			○			○	
○		建設経理	基礎的な建設業簿記・原価計算を学び、建設業経理検定合格のための対策を行います。	1 後	30	2	○			○		○		
○		造園技術 2	剪定、刈込、地被植物の管理、施工について学びます。	1 後	30	2	○			○		○		
○		基礎デザイン	土木や造園の模型制作の基礎を、実習を通じて学びます。	1 後	60	2			○	○		○		
○		CAD 製図 1	コンピュータの基礎知識、図面を描く CAD の操作について学びます。	1 後	60	2			○	○			○	○
○		測量実習 2	測量実習 1 で習得した技術をもとに、路線測量、工事測量について、実習を通じて学びます。	1 後	60	2			○	○			○	
○		造園実習 2	剪定、刈込、地被植物の管理、施工の基礎について実習を通じて学びます。	1 後	60	2			○	○			○	
○		造園設計	造園設計の基本的な考え方を習得し、条件に沿った設計について、実習を通じて学びます。	1 後	60	2			○	○			○	○
	○	測量士補資格対策講座	測量士補合格のための対策を行います。	1 後	30	2	○			○			○	
	○	公務員対策 1	公務員試験対策として、教養試験のうち数的推理・判断推理の分野について学びます。	1 後	30	2	○			○		○		
	○	建設機械 2	土木施工、造園施工で使用する建設機械の免許を取得するための講習を実施します。	1 後	30	1			○		○		○	
	○	国内研修	歴史的建造物、構造物、庭園を見学し、今後の設計に役立てます。	1 後	30	1			○		○	○		

○		ビジネススキル3	就職するための心構え、自分に合った就職先の選び方など、就職活動に必要な事柄を学びます。	2前	30	2	○			○		○		
○		構造力学2	構造計算に必要な断面の諸係数、応力度と安全の検討や、トラスの力学について学びます。	2前	30	2	○			○		○		
○		土質工学	土の物理的性質、圧密、地盤の調査について学びます。	2前	30	2	○			○			○	
○		土木施工管理技士資格対策1	土工、コンクリート工、基礎工から施工管理全般を学び、2級土木施工管理技士の資格対策を行います。	2前	30	2	○			○		○		
○		土木施工管理技士資格対策2	各種土木構造物の施工法や関連法規を学び、2級土木施工管理技士の資格対策を行います。	2前	30	2	○			○			○	
○		造園施工管理技士資格対策	各種造園施設の施工法、施工管理を学び、2級造園施工管理技士の資格対策を行います。	2前	30	2	○			○		○		
○		CAD製図2	2次元CADを活用し、平面図、立面図など設計図面の基礎的な作成方法を学びます。	2前	60	2			○	○			○	
○		道路計画実習	道路の計画から測量、製図など道路設計の一連の流れを学びます。	2前	60	2			○	○		○		
○		造園実習3	植栽、石組み、垣根など造園施工全般について、実習を通じて学びます。	2前	60	2			○	○			○	
		○ 火薬取扱資格対策講座	火薬類取扱保安責任者試験合格のための対策を行います。	2前	30	2	○			○		○		
		○ 公務員対策2	公務員試験対策として、土木専門試験の分野について学びます。	2前	30	2	○			○		○		
		○ 施工実習	U字溝・ブロックの据付、丁張の設置など、土木構造物の施工について、実習を通じて学びます。	2前	30	1			○	○		○		
		○ 2級造園技能士対策講座	2級造園技能士合格のための対策を行います。	2前	60	2			○	○			○	
○		水理学	水の性質、静水圧、水の運動、管水路について学びます。	2後	30	2	○			○			○	

○			施工演習	2級土木施工管理技士・2級造園施工管理技士合格のための対策を行います。	2後	30	2	○			○		○	
○			積算演習	土木工事、造園工事で使用する材料数の求め方、工事代金の項目、内訳などについて学びます。	2後	30	2	○			○		○	
○			防災環境学	地球を取り巻く環境問題や、地震・津波・土砂災害に対する防災について学びます。	2後	30	2	○			○		○	
○			建築概論	建築構造、計画、法規等について学びます。	2後	30	2	○			○		○	
○			卒業制作	2年間の集大成として構造物の設計、庭園の設計や施工、模型制作などを行います。	2後	240	8				○	○	○	
合計				44 科目	1950 単位時間(90 単位)									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業時に必修科目1590時間（74単位）および選択科目120時間（4単位）以上取得、合わせて1710時間（78単位）以上取得すること （留意事項）		1学年の学期区分	2 期
		1学期の授業期間	15 週

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。